



千葉県から買物弱者対策モデル 実証事業に指定されました



No. 86のわくわ〜くで空家の民家を活用した地域の居場所づくりとして紹介した民家ギャラリー結は、大きな床柱、広い縁側と18畳の和室のたたずまいで、あっといふ間にココミで評判が広がりました。現在、月曜日から土曜日までほぼ毎日、教室やサークルで月に延べ300人、年間のイベントを含めると延べ4000人の利用があります。60代〜70代前半の女性が中心で、最高年齢は90歳のご婦人。ご夫婦での利用もあり、多くの方がリピーターで、お教室やサークルを掛け持ち、週に2〜3回訪れる方もいて、ごく自然な形で生活支援サービスの依頼も舞い込むようになりました。

ういずには、起業当初から、地域のたすけあい支えあい活動として高齢者を対

象にした制度外の有償家事支援サービスを起こしたいという思いがありました。結局、子育てひろばと在宅での一時預かり、産前産後の沐浴のお手伝い等にとどまり、高齢者支援には結びついていませんでした。ところが、民家ギャラリー結を開き、居場所づくりから参加者同士で助け合い声かけあう関係ができ、またそこからボランティアでなく仕事として病院への付き添いや買物の付き添い、掃除等の依頼を受け、支援の形をコーディネートするようになりました。今では、柏あいの手とも繋がって月に30時間程度の生活支援サービスを行っています。5月にはNPO法人となり、買物弱者対策モデル実証事業に応募。7月、県の委託事業を受けるまでにこぎつけました。生活

支援サービスで「買物代行・お届けサービス」として事業展開したいと考えています。県の事業委託目的には失業者雇用対策があり、ういずも雇用を体験することになりましたが、この機会をとらえて雇用対象者を地域の高齢者に絞り込むことで、コミュニティービジネスの創出とユニバーサル就労、この2つを同時に実践したいと思っています。モデル事業は来年の2月末までで、それ以後は、自力で事業継続の道を探らなくてはなりません。自治会や商店街との理解と協力を得て生活支援サービスに繋げ、買物代行サービスを地域の見守り運動と絡め、今後の展開へと挑戦していきたいと思います。

W.Coういず 北田恵子

わくわ〜く work ちば

NPOワーカーズコレクティブ千葉県連合会

No. **93**
2011. 8

ワーカーズ・コレクティブ (W.Co) とは…

同じ目的を持った仲間が作り出す、地域に有用な事業/出資・労働・経営を全員で担う/働くことを通し、社会的・経済的・精神的自立をめざす

W.Co San 藤堂妙子さん

新人さん
いらつしや〜い

真新しい街を「太陽」のように元気にします!

Sanには3部門の3、太陽のサン、〇〇ちゃんママではなく独立した一人の人間としての「さん」の3つの意味が込められています。

W.Co Sanは千葉市稲毛区園生のデポー園生の運営を担うW.Coとして今年3月設立。7月15日、待ちに待ったオープンの日を迎え、いよいよ事業がスタートしました。デポーフロア、惣菜・弁当の店「ボナペティ」、地域交流スペース「カシュカシュ」の3部門あり、そ

それぞれのユニフォームに身を包み、ちょっと緊張した雰囲気の中、開店しました。消費材やお弁当などを通し、コミュニティの拠点となるよう張り切っています。藤堂さんは「ボナペティ」担当。カフェを運営していた経験もある頼もしい新人さんです。



じとれるので、メンバーと一緒にがんばっていきたくています。

出身地 千葉県(船橋) 1961年生まれ
家族 夫、娘(小6)の3人家族
趣味 書道

生活クラブのお気に入り食材 パスタ他多数

(インタビュー 広報部)

W.Coとの出会いは?

昨年11月、友人からメンバー募集を聞き、参加を決めました。「ニンジンから宇宙へ」(赤峰勝人著)という本をきっかけに食に興味を持ち、旭愛農の大松秀雄さんと出会い意気投合。「自然一」という旭愛農のアンテナショップを手伝っていましたが、その後カフェレストランを営み食への思いを実践してきました。その経験を生かし、自分自身が納得できるものを提供したいと思っています。今は惣菜やお弁当を作ることがすごく楽しいです。

W.Coの働き方についてどう思いますか?

おもしろいと思いました。人を雇っていた経験から、どこかに限界を感じていました。これからの日本にとってもこの働き方を確立すべきだと思います。事業の立ち上げにかかわることに醍醐味を感じますし、みんなで話し合う試行錯誤が楽しいです。

今後の抱負は?

まだやりたいことの1/10しかできていません。惣菜の量り売り、半調理品、配食サービス、オードブルなども始めたいと思っています。今は自分にとって進むべき方向が感

ボナペティおすすめレシピ

カボチャとさつまいものサラダ

カボチャとさつまいもを乱切りにして茹でる。茹でたら湯を捨て、からいりして水気をとばす。マヨネーズで味付けし、最後にシナモンをふる。

*簡単だけれどおいしいですよ。お好みでレーズンやリンゴを入れてもいいです。カボチャの煮物が残っていたら、それもOK。甘いスイーツのようなサラダに仕上がります。

W.Co法定化に向けた学習会に参加

7月25日、生活クラブ千葉本部で、WNJ宮野洋子代表を講師に、法制化運動の現状進捗把握と現案学習会が開催され、これまでの経過と要綱案について説明を聞きました。W.Coを立ち上げるにも壁が厚く、W.Coが認知されていないという現状を知りました。

全国に530W.Coあるそうですが、その各々の実態はどのようになっているのか、また、W.Co法が成立した時に、その中身に見合った実態があるのか、自分たちが作ってきた働く場を次の世代に繋いでいけるのか、と不安も感じました。多くが生活の基盤を支えられないのが現状です。要綱案を精査した上で法定化を求めると同時に、W.Coが力をつけていくことが大切だと思います。(企)わーかーず・あい 小野田ユリ子

運営委員会報告

- ★次世代リーダーを対象に、経営分析と経営戦略の立て方」についてのリーダー研修開催
- ★中食PJ実行チーム立ち上げを討議
- ★生活クラブブランディング化による連合会ロゴの変更について討議
- ★風の村インフォーマルPJプレゼンに向け、準備を進めることを確認
- ★定款変更の内容を決定
- ★2010年度補正予算が決定

あなたも今日から手作り作家!

生活クラブ虹の街のセンター展示会が年3回、8センターで行われており、現在ショップ部会の4つの事業所が分担して出店しています。

どの事業所も手作り品を中心に出品していることもあり、大勢の作家に作品をお願いしていますが、慢性的に不足している状況にありました。そこで、生活クラブ虹の街と協力し、組合員向けに作家募集の企画をしました。

「なないろえんぴつ」への掲載で、一次審査の資料配布には13件の問い合わせがあり、書類選考で8人の方が通過。6月29日のプレゼンテーション(二次審査)に参加していただきました。

当日は猛暑の中、遠く東京から参加す

る人もいました。作品を一堂に展示し、順に1人10分のプレゼンで、自分の教室を持って教えていることや、1人で工夫しながら楽しんでいることなどをアピール。審査委員の方からも製作日数や価格についての質問などがあり、会場は暑さの中でも和やかな雰囲気でした。

最終的に秋の展示会への出展作家は6人になりました。内容は、七宝焼、手編みニット、ろうけつ染め、着物リメイク、立体グリーティングカード、陶芸。秋の展示会をお楽しみに!

ショップ部会部長 飯田信子



放射能学習会に参加して

生活クラブ虹の街主催の放射能学習会が2回開催され、虹の街の受託事業や食の事業所から多数参加しました。

私は8月1日、民主党の篠原孝さんの講演に出席し、原発事故に対する国の対応やチェルノブイリの状況などをうかがいました。毎日、お弁当や惣菜を作っていますが、野菜、肉、牛乳、米と、お客様は不安だと思います。放射能検査済みの消費材については知らせていき、現状を説明できる

ように情報を整理し、見逃さないよう注意したいと思っています。幼稚園給食を提供している事業所では、特に注意が必要です。私たちが放射能についての知識を得て、まちがった情報にまどわされないよう、学習していきます。

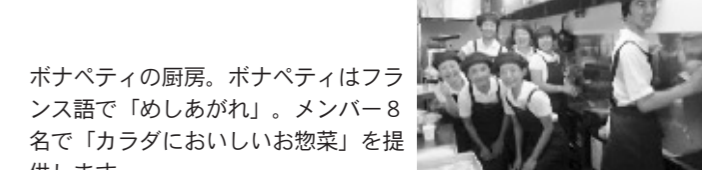
開催の挨拶で元気クラブの方がおっしゃった「私たちにできるがんばろうは種を蒔き続けることです」という言葉が印象に残っています。この厳しい状況を生産者の方々と共に乗り越えたいと思います。紙ふうせん 鈴木二味子



テープカット
右端はW.Co Sanの
代表 糸桜尚代さん



カフェCache・Cache
(意味はかくれんぼ)
の店内。庭を見渡せる
大きなガラス戸から
の眺めも癒されます。



ボナペティの厨房。ボナペティはフランス語で「めしあがれ」。メンバー8名で「カラダおいしいお惣菜」を提供します。